

創刊 25 周年記念号発刊にあたって

柏木直哉

本誌は、「コンピュータや情報処理に関する技術について、その歴史的意味や位置づけを明らかにしながら、技術的な問題解決への努力や成果を紹介すること」を目的として、1981年2月に創刊され、この度、本号と次号を創刊25周年記念号として発刊するに至りました。この間、多方面の方々からご評価を頂き、弊社としてはささやかなりとも社会に貢献し得たのではないかと考えております。これも偏に皆様方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

日本で最初の商用コンピュータ「UNIVAC 120」が野村証券と東京証券取引所に設置されたのが、今から50年前の1955年ですから、丁度25年ほど経ったところでの創刊であったということが出来ます。

「創刊によせて」の中には、「個々の利用分野から見れば、もはや、コンピュータと呼ぶことは妥当ではないとも考えられ、一般情報処理系として現代社会で広く機能していると言っても過言ではない」とコンピュータの活用の幅が広がっていることへの記述がありますが、ハードウェアの選択そのものが情報システムの価値の大きな部分であった時代が終わり、情報システムがより高度に、複雑になり、業務アプリケーション面の技術といった分野への関心が高まっていった中での創刊であったということが出来るかと思えます。従って、本誌では、コンピュータ・サイエンスやソフトウェア・エンジニアリング的な主題に加え、適用業務面の技術を広く取り上げ、「成果に基づいた技術の紹介」を主軸に各論文を掲載してまいりました。この25年間、新しい情報システムの方向を時宜にあったテーマによる特集号として発刊して来られたと自負しております。

ITの分野を振り返ると、本誌創刊の後、この25年の間に更に大きく変貌してきています。各コンピュータメーカーが独自のノウハウを注ぎ込んだ各社独自設計思想による汎用大型コンピュータが全盛であった時代からオープンな設計思想によるサーバ、パソコンが活躍する時代へ、さらにはインターネット、あるいはブロードバンド環境の普及の中で、ネットワーク抜きにはシステムを考えられない時代へと進化しており、これがソフトウェアのあり方、あるいはコンピュータの活用の仕方にも大きく影響を与えてきています。加えて、組込型ソフトウェアへの関心も強くなってきているという状況にあるかと思えます。

日本ユニシスのビジネスもこの25年で大きく変わってきました。ハードウェア、ソフトウェアの提供がビジネスの主軸であった時代は去り、「サービス」が新たなビジネスの主軸になってきています。顧客の価値を如何に上げていくか、あるいは顧客の新たな価値を如何に創造していくかといったコンサルテーション的なアプローチから始まり、顧客の情報システムの構築、アウトソーシング形態による提供、システムを最適に運用していくための保守を含めたサービス等、様々な「サービス」が行われています。こうしたサービスを提供していくためには、プロセスの標準化、あるいは、プロジェクト・マネジメント技法への視点が重要なことはい

うまでもないことで、広範なサービスを支える最高水準のアーキテクチャやメソドロジーが「サービス」のレベルを維持、向上する上で大きな役割を担ってきています。

こうした変化に伴い、この 25 年間、本誌のテーマも変わってきました。ハードウェア、あるいはソフトウェアを構成する個々の要素技術についての議論から、IT を活用したシステム全体、あるいは更に広く、ビジネス全体を眺めた中での IT のあり方、その構築技術、あるいはその構築をより安全に、確実な品質の下で行うためのメソドロジー、プロセスといった分野へ、そして、最近では情報セキュリティへと議論が広がって来ています。

本誌は、その時代の日本ユニシスグループの実践・検証している技術成果を、時宜を逸せず論文として報告していくことを使命の一つと考えていますので、この変化は当然の結果だと捉えることが出来ます。今後とも、この姿勢を維持し続け、日本ユニシスグループの技術への信頼を高めていく一助となるよう、努力していきたいと考えております。

そうした中で、この 88 号と次の 89 号を創刊 25 年の特集記念号と位置づけました。

1955 年、野村証券と東京証券取引所に日本で最初の商用コンピュータ「UNIVAC 120」が導入された商用コンピュータの黎明期から今日に至るまで、日本ユニシスグループは、様々なソリューションとテクノロジーを提供してきましたが、この 88 号と、次に発刊予定の 89 号では、現在の日本ユニシスグループが提供するソリューションとテクノロジーを一堂に集めた特集号として編纂することといたしました。88 号では各種業界の経営課題からその解決を支援するソリューションを紹介、89 号ではソリューションを情報システムとして支えるテクノロジーを紹介いたします。

本誌の内容は、1996 年以降、社内外のホームページでの公開も行っており、どなたでも関心のある方にご参照いただけるようにしております。今後とも、皆様のお役に立てる媒体とすべく努力していく所存でございますので、尚一層のご愛顧とともに忌憚のないご意見、ご批判をお寄せ下さいますよう、お願い申し上げます。

(代表取締役常務執行役員)